

~長岡京市上下水道ビジョン中間見直し~

長岡京市上下水道事業審議会

第3回資料

第5章 経営戦略

水道事業 p.54

下水道事業 p.118

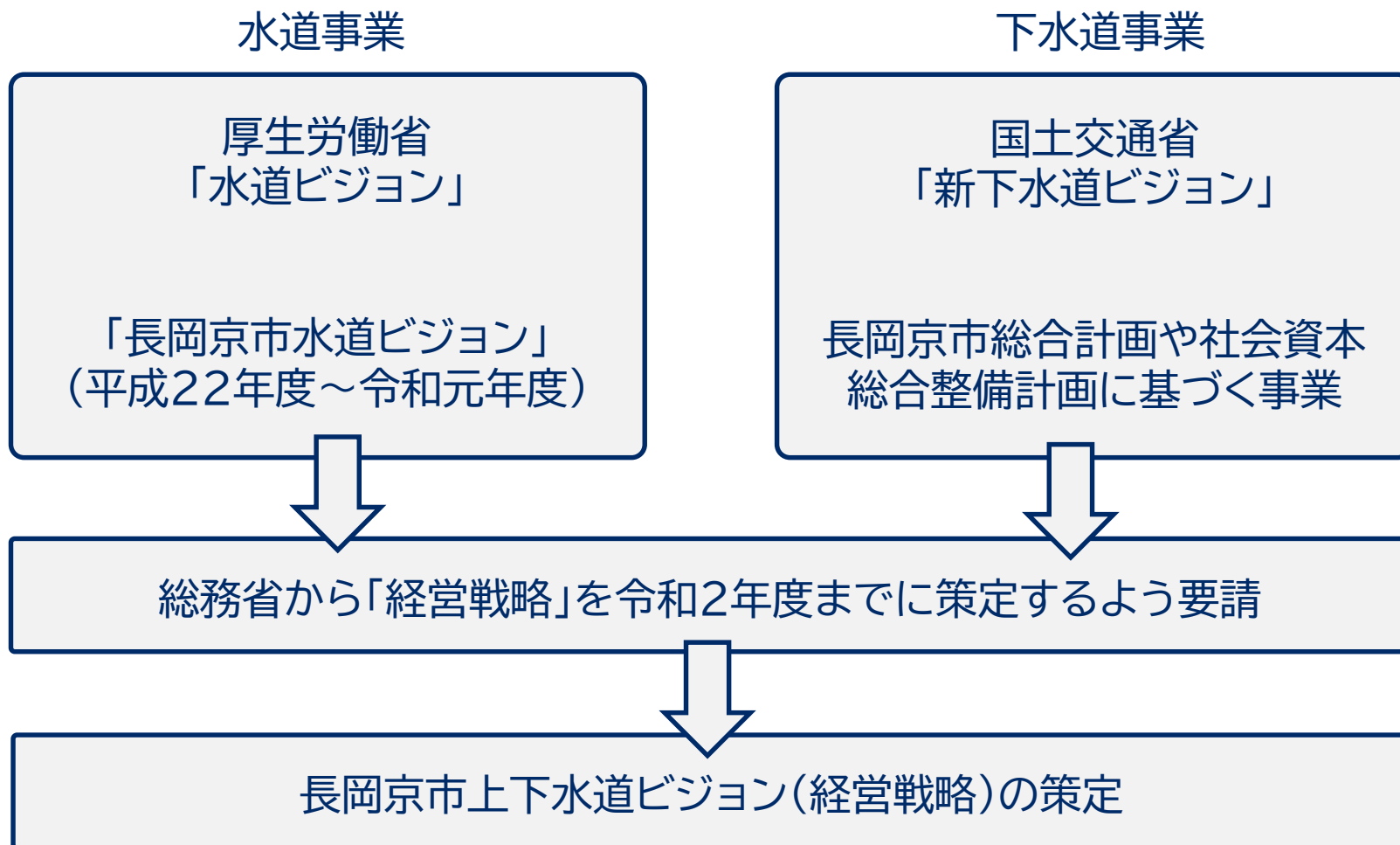


経営戦略

第5章

1 経営戦略とは

経営戦略策定の背景について



経営戦略策定の背景について

長岡京市上下水道ビジョン(経営戦略)策定
(令和2年度～令和11年度)



策定後3～5年内の見直しが必要
(総務省は全対象事業へ令和7年度までに改定を要請しています)



中間見直し

長岡京市上下水道ビジョンの中間見直し

- ・前期計画の検証(R2年度からR6年度分)
- ・後期計画の見直し(R7年度からR11年度分)

※ R12年度以降の経営戦略は、現計画の見直しによる計画年度の延伸ではなく
新たな10年度分の計画策定を前提としています。

投資試算

新たな設備投資、老朽化施設の改築更新、既施設の耐震化などの設備投資に必要となる「支出」の試算です。

本市では、上下水道事業とともに新設事業はほぼ完了していることから、「老朽化対策」「耐震化」などが主な対象事業といえます。

※ 下水道事業（雨水）は新設事業が続きます。

財源試算

上下水道料金、国庫交付金、一般会計繰入金など「収入」の試算です。節水機器の普及や、人口減少といった状況を分析し、期間内の収入額を試算し、上下水道料金改定が必要となるかの検討をします。

経営戦略策定の基本的な考え方

投資試算

施設・設備投資見通し

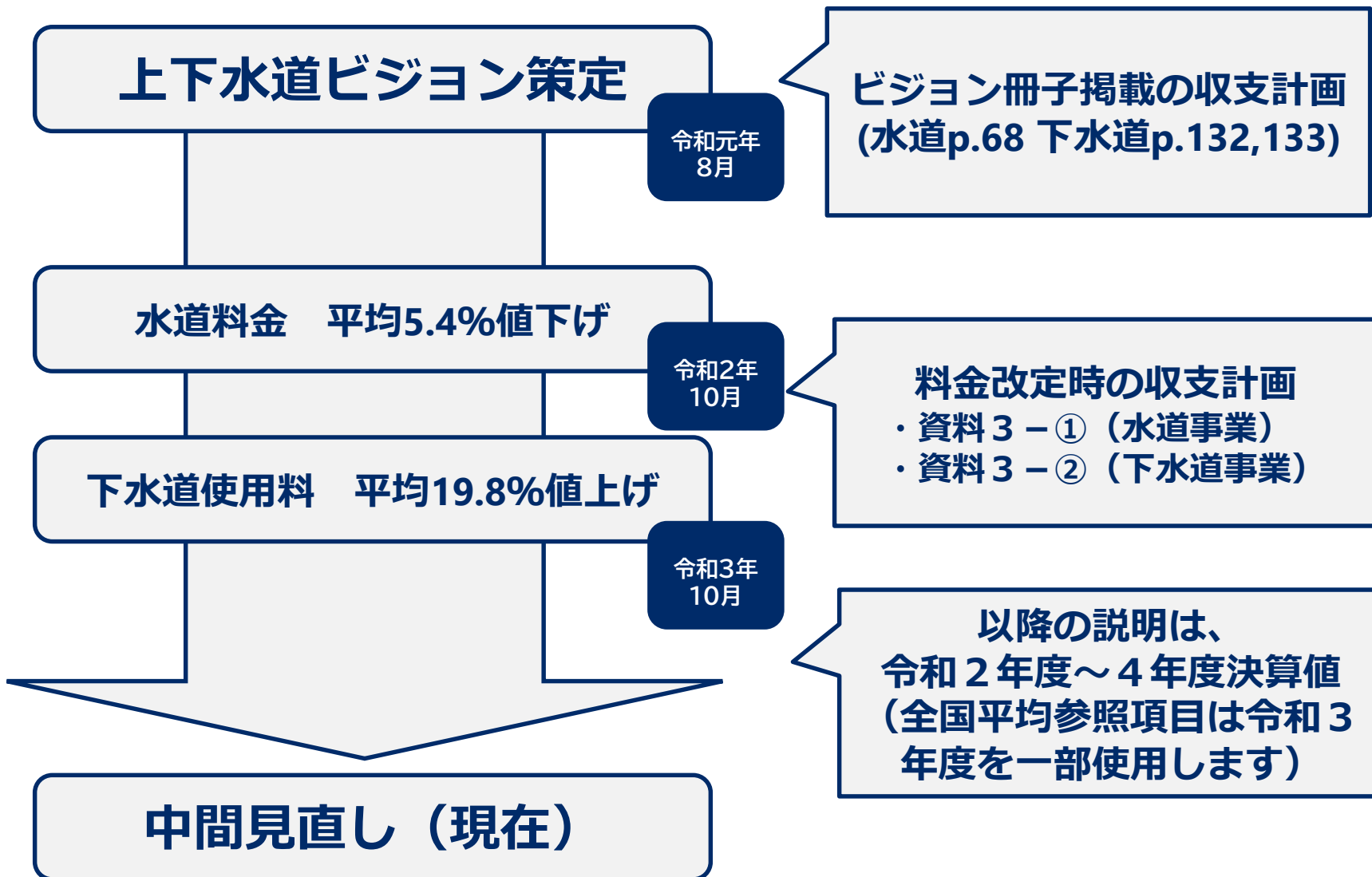
10年後あるべき姿を達成するための投資計画

財源試算

収入見通し

10年後までの水需要予測に基づく収入計画

ビジョン策定後の変更点





水道事業の「投資試算」と「財源試算」



4 経営戦略による収支計画

経営分析表 (令和3年度決算)

資料4-1 (水道事業)

経営比較分析表 (令和3年度決算)

京都府 長岡京市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	未採給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1ヵ月20㎡以上戸数割合(四)	
-	62.09	100.00	2.981	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
81,169	19.17	4,234.17
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
81,507	12.36	6,594.42

グラフ凡例

- 当団体実績 (当年度)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
 ①令和2年10月に水道料金を引き下げる改定を行った為、給水収益が減少しており前年度に比べ経常収支比率が減少しています。経常収支は100%を超えています。健全経営に取り組んでいます。効率的な事業運営を行い資金確保に努めます。
 ②企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を下回っていますが、借入の更新による企業債借入額が増加しており、増額に注視します。
 ③料金回収率は全国平均値及び本市前年度より下回っていますが、コロナ禍や令和2年10月に実施した料金改定による影響を注視していきます。
 ④給水原価は、類似団体平均値を上回っており、経営効率に起因しています。
 ⑤施設利用率は、類似団体平均値を上回っており効率的な運用ができています。
 ⑥有収率は、計画的な管線の更新と漏水調査を実施し、高率を維持しています。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率及び②管線経年比率は類似団体、全国平均ともを上回っており、老朽化が進んでいると考えられるので、計画的な施設の更新等を今後進めていく必要があります。
 ③管線更新率は前年度と大幅に上回りました。基幹管線など優先順位を考慮しとくに計画的な施設の更新に取り組んでいます。

全体総括

令和元年度までの10年間は、長岡京市水道ビジョンに基づき、経営の健全化を図るとともに、効率的な事業運営を行えるよう施設の再構築に取り組まれました。
 令和2年度からは、令和11年度までの10年間の計画期間とする長岡京市上下水道ビジョン(経営戦略)に基づき人口減少等による需要の減少が見込まれる中、削減に当たり従来で取付いた水道水を安定的に供給していくための取り組みを進めています。計画的な施設の更新を進めるとともに、事業の効率化を図り、経営基盤の強化に取り組んでいます。

経営戦略（水道事業）

① 「安全」の投資試算 目標項目

(単位:千円)

取り組み内容	前期（令和2～6）	後期（令和7～11）
鉛製給水管取替 （約2,600件）	330,000	330,000
ろ過機ろ材入替	91,500	—
送水ポンプ取替	27,360	—
ろ過ポンプ取替	—	12,200
その他 （配水池内清掃ほか）	123,500	97,150
合 計	572,360	439,350

経営戦略（水道事業）

ビジョン P61-64

② 「強靱」の投資試算 目標項目

(単位:千円)

取り組み内容	前期（令和2～6）	後期（令和7～11）
東第2浄水場浄水池 耐震工事ほか	219,550	174,255
東第2浄水場中央監視装置 更新等工事ほか	528,210	51,250
基幹管路更新工事	930,821	634,404
主要幹線管路更新工事	726,988	515,345
老朽管路更新工事 (口径100mm以下)	537,159	660,352
その他（漏水調査ほか）	45,250	45,250
合 計	2,987,978	2,080,856

③ 「持続」の財源試算 目標項目

重点基準目標	内 容
(ア) 損益黒字の確保	<p>資本的収支における施設整備を着実に実施することから、資本的収支の差額を補てんする財源を確保するために、収益的収支の黒字を確保すること</p> <p>→ 経常収支比率 100%以上</p>
(イ) 安定的な自己資金残高の確保	<p>運転資金として必要最低限確保しなければならない資金を設定すること</p> <p>→ 自己資金残高 9億円以上を確保 (ビジョンP.64(注1)もご参照ください)</p>
(ウ) 給水収益に対する企業債残高を抑制	<p>企業債を借り入れる場合は、給水収益に対する企業債残高の割合を一定限度内に抑えること</p> <p>→ 給水収益に対する企業債残高の割合 300%未満</p>

③ 「持続」の財源試算 前期の検証

重点基準目標		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
(ア) 損益黒字の確保 (経常収支比率：%)	計画	101.59	90.82	94.06	101.62
	実績	106.48	101.52	99.15	91.87
(イ) 安定的な自己資金 残高の確保 (資金残高：億円)	計画	16.85	13.46	11.22	10.67
	実績	22.73	23.05	21.79	16.35
(ウ) 給水収益に対する 企業債残高を抑制	計画	281.24	300.27	302.77	300.43
	実績	270.26	291.62	297.54	314.75

※ 令和2年度から令和4年度は決算、令和5年度は予算ベース



下水道事業の「投資試算」と「財源試算」



4 経営戦略による収支計画

経営分析表 (令和3年度決算)

ビジョンP119

資料4-2 (下水道事業)

経営比較分析表 (令和3年度決算)

東京都 東京都

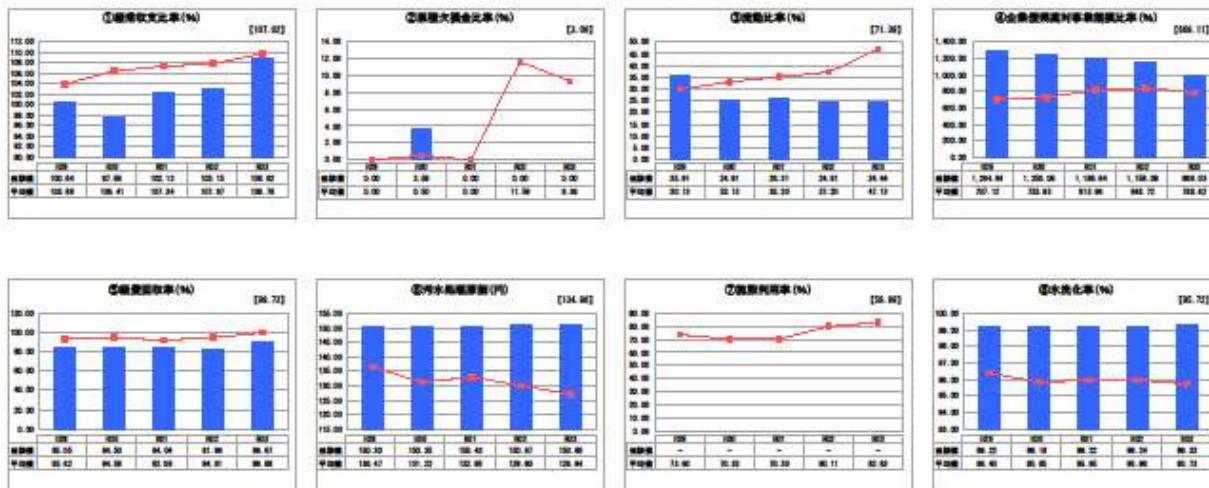
事業名	事業名	事業名	施設区分	管線の種別
法適用	下水道事業	公営下水道	561	赤羽線
資金不足比率 (%)	固定資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有効率 (%)	1ha当り埋込管化率(%)
-	55.33	99.99	83.94	2.955

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
81,168	15.77	4,254.77
下水道管内人口 (人)	下水道管面積 (km ²)	下水道管内人口密度 (人/km ²)
81,477	9.79	8,324.35

グラフ凡例

- 最終年度 (最終値)
- 前年度平均値 (平均値)
- 令和3年度決算平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
 ①の経常収支比率は、100%を超えています。汚水事業については、下水道施設が増えるべき費用の一部について、一般会計からの借入金等による繰上返済を行っています。引き続き繰上返済に抑制します。
 ②の繰上返済比率は、繰上返済等の取組によって企業債の償還が多額なため、24.44%と低くなっています。償還資金の確保が課題となっています。
 ③の流動比率は、繰上返済等の取組によって企業債の償還が多額なため、24.44%と低くなっています。償還資金の確保が課題となっています。
 ④の企業債発行利率平均比率は、前年度から多額の借入れを行ったことから、繰上返済、繰上返済の増加を反映して上昇しています。しかし、償還のペースを速く、企業債の償還が減少していることから、下降傾向にあります。
 ⑤の経費削減率は、令和3年10月に実施した下水道管線の改修等の取組により、前年度より削減率より向上しました。しかし、依然として削減目標、全体の平均値を下回っており、経営の削減と合わせて、経営の効率化の取組が必要です。
 ⑥の汚水処理率は、前年度より向上しましたが、引き続き汚水処理の確保管理にかかる経費が増加することが見込まれます。維持管理を適切にかつ効果的に行っていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

現在は、法定耐用年数を経過した管線は無いものの、今後、経年の経過による老朽化の発生から平成18年度ごろに発生した管線の老朽化が懸念されます。管線の点検を行い、損傷状況に応じた処置を実施していく必要があります。管線老朽化が全管平均と同程度の年数より短いこともあり、管線改善率が低くなっています。

条件指標

下水道事業の現状を把握し、その課題に対し計画的に取り組むべく、令和元年度に令和2年度から11年度までを計画期間とする「下水道ビジョン (最終版)」を策定しました。令和3年度より「下水道ビジョン」に基づいた事業遂行を行っています。
 下水道事業の経営においては、「基準外一般企業新株主の利益または損失」(総資産の10%以上)「償還資金の確保」をビジョンの重点課題目標に掲げています。今後も同ビジョンに基づいた取り組みを続け、課題の解消を図ります。
 下水道施設の老朽化については、施設の老朽化による老朽化を速く、下水道ビジョンのネットワークマネジメント計画に基づき、定期的な点検を実施し、対応が必要な箇所については、整備・改善を計画的に行っています。

※「経常収支比率」、「繰上返済比率」、「流動比率」、「経費削減率(%)」及び「設備利用率」については、当該適用企業では算出できないため、当該適用企業(561)の当該平均値及び決算平均値を算出しています。

経営戦略（下水道事業）

① 「安全安心」の投資試算 目標項目

(単位:千円)

取り組み内容	前期（令和2～6）		後期（令和7～11）	
いろは呑龍関連整備事業	委託	45,000	委託	30,000
	工事	795,000	工事	910,000
小畑川関連整備事業	委託	60,000	委託	15,000
	工事	50,000	工事	100,000
犬川雨水幹線・神足ポンプ場 改修関連整備事業	委託	140,000	委託	70,000
	工事	915,000	工事	250,000
合計	2,005,000		1,375,000	

経営戦略（下水道事業）

② 「環境保全」の投資試算 目標項目

(単位:千円)

取り組み内容	前期（令和2～6）		後期（令和7～11）	
ストックマネジメント（汚水） 関連事業 （汚水管路施設の老朽化・耐震化 を図る長寿命化対策事業）	委託	102,216	委託	102,216
	工事	291,641	工事	291,641
合 計		393,857		393,857

経営戦略（下水道事業）

③ 「健全経営」の財源試算 基準および目標項目

(単位:千円)
(単位:千円)

基準もしくは目標	内 容
(ア) 基準外を含む一般会計繰入金の適正化	基準外の一般会計繰入金の適正化を図ります。 → 削減又は解消します。
(イ) 経費回収率の向上	下水道使用料の適正化を図ります。 → 100%以上を目指します。
(ウ) 運転資金の確保	資金不足にならないよう図ります。 → 適切な資金確保を目指します。

③ 「健全経営」の財源試算 前期の検証

重点基準目標		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
(ア) 基準外を含む一般会計 繰入金の適正化 (基準外一般会計繰入金：億円)	計画	1.58	0.32	0.25	0.25
	実績	2.75	1.43	0.11	0.15
(イ) 経費回収率の向上 (経費回収率：%)	計画	92.22	100.60	100.47	100.36
	実績	81.96	89.67	99.09	98.33
(ウ) 運転資金の確保 (資金残高：億円)	計画	1.84	1.83	1.83	1.83
	実績	2.06	1.34	1.97	1.96

※ 令和2年度から令和4年度は決算、令和5年度は予算ベース